

(趣意書)

“自己申告型”の奨励金制度をつくりました！

－ 支えられる経験を勇気に －

学校法人三重徳風学園

「困り感」や「生きにくさ」を抱えながらも、「意欲の貧困」に陥ることなく内発的な力を開花させ、「もっと自分を高めたい。」「自分を変えたい。」「徳風で学び直しをする。」などの気持ちを持ち続けて懸命に努力する生徒を応援したい。そして、「諦めていたことができるようになった。」「集団の一員として自分は確かに役立っている。」「自分もやればできる。」「将来は人の幸せのために尽くせる仕事がしたい。」などと自尊感情を高め、卒業後は自信を持って「自立と社会参加」を果たしてほしい。そんな思いで「三重徳風学園奨励金制度（エンカレッジ制度）」をつくりました。

この「エンカレッジ制度」は、学業成績や部活動で顕著な成果を収めた生徒だけを対象とするものではありません。自らの課題・特性・環境を「バネ」にして自分を伸ばし、前向きに生きていこうと頑張る次のような生徒に申請してほしいと考えています。

【申請してほしい生徒の例】

- 中学校では成績不振だったが、元々持っている「学ぶ力」を取り戻し、学校指定の運動部^(注)に入部して練習と勉学との両立を見事に果たしている生徒。
- 中学校で不登校を経験したが、本来の「生きる力」を蘇らせ、親友と共に入部した文化部で部長を務めながら学校生活を心から楽しみ、良好な学業成績を収めている生徒。
- 自らの特性に「困り感」を持ちつつも、「就きたい職業に関係する資格は全て取得する」と決意し、仲間と共に各種検定試験対策講座を欠かさず受講して合格を果たしている生徒。
- 入学当初は、担任がホームルームで話す内容を理解できないこともあったが、復習を怠らずに学び続けた結果、日本語能力試験（JLPT）の「N3」に1年次で合格した外国につながる生徒。
- ほぼ毎日アルバイトをして家計を助けながら、自分の希望進路を実現するために寸暇を惜しんで勉学に励み、優秀な学業成績を収めている生徒。
- 家庭事情により家事や家族の世話、介護などを行ないながらも「皆勤」（無欠席、無遅刻、無早退）を続け、良好な学業成績を収めている生徒。

(注) 学校指定の運動は当面、硬式野球部とします。

「エンカレッジ制度」は、誰でも申請可能な“自己申告型”の奨励金制度です。申請手続きは年度末とし、申請した生徒には、「一年間、何を目標にして、どんなことに努力し、何を学び、自分はどう変わったのか」などについて自らまとめた文書を提出してもらいます。その後、審査委員会で、申請生徒の学業成績、出欠状況、部活動への参加状況、問題行動による特別指導の有無など学校生活全般を総合的に評価し、当該年度の奨励金給付生徒（学年10名以内）を認定の上、奨励金10万円（返還不要）を一律給付させていただく予定です。

また、「エンカレッジ制度」は単年度適用の制度です。認定・給付を継続するためには、毎年度の申請手続きと認定が必要です。当該年度に認定されなかった生徒も、次年度に再度申請して再チャレンジが可能です。したがって、毎年度の認定で計30万円の奨励金（返還不要）が給付されることとなります。

「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも自分を見失うことなく前向きに生きていこうと頑張る生徒を応援する「エンカレッジ制度」。キャッチフレーズは「支えられる経験を勇気に」です。生徒の皆さんの努力を奨励金の形にして支え、勇気づける「三重徳風学園奨励金制度」の趣旨を御理解いただき、たくさんの申請を待ち望んでおります。